

審査員のコメント

○審査員 大野市長 石山志保

まずは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2月の発表会を中止とし、ビデオ撮影による審査に変更しましたことについて、準備を進めてきました生徒の皆さん、楽しみにされていた保護者の皆様には、大変申し訳なく、この場を借りしまして、お詫びを申し上げます。

さて、大野高校1年生の皆さんにおかれましては、これまで提案を作り上げるなかで多くの苦労があったと思いますが、1年間の探究活動をやり遂げたことに対し、心から賛辞とねぎらいの言葉を贈りたいと思います。

また、審査員の皆様、大野高校の教員の皆様におかれても、本事業にご協力をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

さて、発表を拝聴しまして、長引くコロナ禍のなかで困難を抱えながらも、課題に向かい合ってきた様子が伺い取れ、「たくましい大野人」が育っていると頼もしく感じながらお聞きしました。

今回、審査にデジタルの力を活用しましたが、高校生の皆さんにもデジタルが浸透していることを強く感じました。パワーポイントでの発表も素晴らしかったですし、インターネットなどで探した事例の紹介もあり、デジタルの力を存分に活用した探究の足跡が感じ取れました。

こうした取り組みを通じて、皆さんの感覚に引かかった事例というものは、今の社会の気分であり、若い皆さんが期待するところだろうと思います。大野市としましても、皆さんからいただいた感覚を大切にしていきたいと考えています。

さて、大野市を未来につなげていくために、「地域課題」と「地域課題」を掛け合わせて、新しい価値を創っていく、そして、同時に解決していくという発想がこれからのまちづくりに大切であり、この発想を取り入れた提案もありました。

行政以外のまちづくりのアクターに対しての提案もあり、まちづくりの輪を広げていく大切さを感じ取っていただけたと思っています。

また、大野市の中で既に話題になっている、大きな課題に取り組んだ提案が多かったように思います。

こうした難しい課題には、過去に、地域の関係者の人々が、苦慮してきたという背景があります。

コロナ禍が落ち着きましたら、ぜひ、このような人々と関わっていただき、地域課題を肌で感じていただきたいと思います。

提案の中には、すでに実現につながっているものや、来年度から取り組むものもありましたので、ぜひ、大野高校の皆さんと、地域の皆さん、行政が一緒

審査員のコメント

になってまちづくりを進めていけたら嬉しく思います。

最後になりますが、受賞グループの皆さんにおかれましては、心からお祝いを申し上げますとともに、1年生全員におかれましても、本事業を通しての経験が、今後の探究学習や地域活動に生かされることを心から期待しまして、コメントとさせていただきます。